

Work Life Balanceの大切さ

日産自動車株式会社
取締役社長

カルロス ゴーン



世界で最も難しい仕事である子育ては、社会に大きな価値をもたらしています。親は、子供の社会性、感情、そして心理に大きな影響を与え、子供がグローバル社会の一員になれるよう、子供を導いていかななくてはなりません。

大半の親は、自信に溢れた大人になってほしいと子供に望んでいますが、キャリアを重ねる事が仕事と家庭の両立を難しくしています。

私は子育ての専門家ではありませんし、家族の問題に対する解決策や子育ての方針もひとりひとり違うものだと思っています。しかし、私は、仕事と家庭の両立、Work Life Balance、をはかる事は可能だと考えています。人はそれぞれの価値観に合わせたライフスタイルを選べます。規律と強い意志があれば、仕事と家庭のどちらをも大切にしたい生き方ができるでしょう。

働きながら子育てをするためには何を心がければよいのでしょうか。まず、子供たちは親との関わり、親からの影響、そして愛情を望んでいるということを理解することです。

「親との関わり」は、子供にとって、常に親が子供を気にかけているという愛情表現として伝わります。外で長時間働いていても、子供と質の高い

限られた時間を一緒に過ごすべきでしょう。子供はあっという間に成長します。小さい頃から一緒に過ごして絆を深めなければ、そのチャンスは二度と戻って来ないのです。

「親の影響」とは、子供の幸福と価値観の育成に責任を持つということです。子供が小さい間は、親が限界と責任を教えあげるので、成長するにつれ、子供は自分の考えや価値観を持つようになり、自分の頭で考える大人に育っていきます。親の仕事は子供の面倒を見ることから、育てることに変化し、やがて良き理解者へと役割を変えていきます。

「愛情」とは、子供をありのままに受け入れることです。愛情の示し方は親によって様々です。子供を抱きしめたりキスしたり、スキンシップを通じて愛情を示す親もいます。優しさと笑顔で子供を育てる親もいるでしょう。一緒に遊ぶことも愛情表現のひとつです。心のこもった交流が親と子の強い絆をつくり、子供の自信につながるのです。

行政や企業は保育サービス、休職制度、フレックスタイムなどの制度を提供して、家族を支援することができます。しかし、これは、家族に対する強い責任感があって初めて活かされるのです。